

【様式2】

学校関係者評価書

学校名 佐賀県立有田工業高等学校

1 学校関係者評価実施状況

(1) 学校関係者評価実施日 令和8年2月10日(火)

(2) 資料(評価の参考とした資料)

- ・部活動実績報告(全日制・定時制)
- ・進路実績報告(全日制・定時制)
- ・第2回学校魅力化評価システムアンケート結果
- ・学校評価(校内担当者による評価)全日制・定時制
- ・学校魅力化促進事業振り返り資料

(3) 評価者氏名(学校ホームページへの公開は控える。)

学校運営協議会委員 外部委員 13名

2 評価

(1) 学校運営について

①目標の妥当性及び達成状況

学校の重点目標に係るアンケート結果において、全国平均を上回る項目が複数見られた。特に「地域から大切にされている雰囲気を感じる」(全国比+9.1%)、「目標設定し確実に実行することができる」(全国比+10.3%)など、学校の特色を活かした目標設定は妥当であり、概ね達成状況は良好と判断できる。第二種電気工事士の全員合格(在籍92名)や各種コンテストでの受賞実績など、資格・進路両面での成果は目標の達成を裏付けるものである。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

学校魅力化評価システムアンケートの第1回から第2回にかけて29項目中18項目が向上しており、取組の成果が数値に表れている。Instagramのフォロワー数が4月比468名増加し1005名となるなど、情報発信の取組も着実に成果を上げている。就職希望者全員内定・国公立大学5名合格など進路指導の成果も高く評価できる。自己評価においてB評価とされた項目(いじめ対策、働き方改革、学校魅力PR)は、現状を適切に反映した妥当な評価と判断する。

③改善方策の適切さ

グランドデザインの理解促進に向けたホームルーム活動の実施やポスター掲示など、具体的な改善策が講じられている点は適切である。引き続き、各活動とグランドデザインとの関連を生徒が実感できるような継続的な働きかけが望まれる。働き方改革についても、年休取得目標(14日以上)に対し平均10.7日と未達であり、一層の取組強化が必要である。情報発信については、表彰実績のホームページ上での可視性向上やトップページバナーへの掲載など、アクセスしやすい構造への改善が期待される。

(2) 教育活動について

①目標の妥当性及び達成状況

部活動・資格取得・進路指導のいずれにおいても高い成果が上がっており、教育活動の目標は概ね妥当かつ達成されていると評価する。放送部の九州大会最優秀賞・全国入選、ウエイトリフティング部の九州大会入賞、セラミック科生徒の日本和文化グランプリ学生最優秀賞(高校生初)など、各分野で全国レベルの実績が出ている。定時制においても出席率93.6%(過去4年間で最高)を達成し、4年生の欠席ゼロという成果は教育目標の達成を示すものとして高

く評価できる。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

生徒主体のInstagram更新チームの組織化、YouTubeチャンネルの活用、スクールカウンセラーとの連携によるいじめ早期対応など、多面的な教育活動の取組は適切である。「この学校を中学生に勧めることができる」の肯定的回答が83.8%（指定校中第2位）であることは、生徒自身が学校教育活動を肯定的に捉えていることの現れであり、自己評価結果の妥当性を支持するものである。定時制においても食育・生活習慣指導、外部人材活用、中学校からの見学受入れ（11校）など取組は多岐にわたり適切に実施されている。

③改善方策の適切さ

「この学校を中学生に勧めることができる」の生徒アンケートで1回目（83.8%）から2回目（79.2%）と低下した点については、生徒へのヒアリング等で原因を把握し対策を講じることが望まれる。SNS発信については、お知らせ中心のコンテンツ構成を見直し、生徒の生の声や具体的な活動の過程を見せるコンテンツを増やすことで、より広い層への視聴が期待できる。地域みらい留学制度の認知拡大に向けては、30代・40代の卒業生ネットワークの活用や、同窓会を通じた情報発信の強化が有効と考えられる。Instagram運営チームの継続的な引き継ぎ体制の整備（マニュアル化・生徒会との連携強化）も早期に取り組むことを推奨する。

3 その他学校に対する意見や提言

本校は部活動・進路・地域連携のいずれにおいても多くの成果を上げており高く評価する。以下、協議の中で出された主な意見・提言を記載する。

○表彰実績の発信について

多数の表彰実績が蓄積されているが、ホームページ上に散在し検索しづらい状況にある。トップページにバナーを設置するなど、アクセスしやすい構造への改善が望まれる。また、Instagramにおいても表彰された経緯・努力・生の声を含むコンテンツを掲載することで、中学生や保護者へのより効果的なアピールが期待できる。

○グランドデザインの浸透について

グランドデザインに関するアンケートの肯定的回答率（58.1%）は他項目に比べ低い。各活動・授業の場面でグランドデザインとの結びつきを教師がフィードバックすることで、生徒の理解と納得が深まると考えられる。継続的かつ体験的な働きかけが重要である。

○生徒の安心・安全な学びについて

スクールカウンセラーとの連携や担任による早期対応など、いじめ・悩みへの組織的対応は評価できる。一方で、SNS利用に伴うトラブルリスクへの継続的な指導・啓発が望まれる。また、成果が出にくい生徒や困難を抱える生徒への丁寧な寄り添いが、学校全体の安心感・生き生きとした雰囲気を生み出していることも、今後の広報において積極的に発信していただきたい。

○地域みらい留学・生徒募集について

デザイン科・セラミック科の特色は全国唯一の強みであるが、特別選抜の志願者数が例年より少ない状況を重く受け止め、さらなる広報強化が急務である。30代・40代卒業生ネットワークや同窓会を通じた制度周知、中学校教員・保護者への直接的な情報提供を強化することが有効である。地域みらい留学生在が核となり後輩を引っ張る好循環が生まれており、この仕組みを維持・発展させることが学校の活性化に繋がると考える。

○定時制の食育・生活支援について

味噌作り・歓迎会食・卒業会食・季節行事食など、給食を通じた食育・共食の取組は定時制ならではの大きな魅力である。この取組を積極的に発信することで、困難を抱える生徒への支援体制という学校の強みを中学生・保護者に伝えることができる。SNSや学校ホームページでの発信強化を推奨する。